平成２５年度研究成果報告書《平成２５年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	１０	都道府県・指定都市名	群馬県
学校名（ふりがな：ぐんまけんりつとみおかひがしこうとうがっこうがっこう） （生徒数）	群馬県立富岡東高等学校学校 （４４９人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：　群馬県富岡市富岡１１８－６
電話番号：　０２７４－６２－２３２１
研究内容等を掲載しているホームページの URL：http://www.tomihi-hs.gsn.ed.jp

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：４高等学校
○研究対象教科等：国語
○研究のキーワード：古典，　読むこと，　教育機器，　グループ学習，　学び合い
○研究成果のポイント：学習形態の改善。
　　教育機器の活用による古典に対する興味・関心を喚起。
　　学校全体での研究の取組。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

「古典の授業における＜読むこと＞の指導方法について」
　　―教育機器の活用等を通して読みを深める授業の工夫・改善―

（２）研究主題設定の理由

高等学校学習指導要領の教育内容の主な改善事項に示された「伝統や文化に関する教育の充実」では，国語において古典に関する学習を充実することが示されており，日本の文化を知る上で，古典を学ぶことの意義や重要性が指摘されている。

しかし，現状では多くの生徒が古典を苦手としている。その理由としては，「文法が難しいから」という回答が多い。このことは学習者だけの問題ではなく，指導者側の一方的な講義形式の授業や訓詁注釈的な指導方法にも原因があるのではないかと思われる。

授業の中で教育機器を積極的に利用して教材のビジュアル化を図ることは，学習内容の理解を促進し，興味・関心を喚起する上で非常に有効な方法であると思われる。

そこで，授業での教育機器の活用等による「読むこと」の指導方法を研究していくことで古典に対する学びを深めていきたいと考え，標記の研究主題を設定した。

（３）研究体制

「指定校事業推進委員会」を設け，研究推進のための原案の作成や提案を行う。
（委員長：教頭，　副委員長：研究主任，　委員：国社数理英の教科代表）

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	4月指定校事業推進委員会設置（全体計画作成等） 4月タブレット端末活用セミナー参加（東京） 7月校内研究授業後，西辻主任視学官講話 7月群馬県総合教育センター「教育の情報化研修講座」参加 11月県外校視察（お茶の水女子大学附属高等学校） 11月公開研究授業後，西辻主任視学官による指導・講評 12月県外校視察（筑波大学附属高等学校）

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等
・生徒アンケートによる実態調査（「古典について」）の実施
・学習方法の研究
（これまでの古典教育方法の文献的研究・ICT 活用による授業実践例の研究）
・県外先進校視察報告会を通しての職員研修
・校内研究授業・公開研究授業に伴う公開授業での指導案の様式等の研究（全教科）
・公開研究授業後の協議方法についての工夫改善
（生徒代表による感想発表，参加者全員でのグループ協議を導入）
・各教科でのグループ学習の導入（特に下記の活動を取り入れた授業の工夫・改善）
①自分の気付きを伝え，仲間に聞いてもらう活動
②話合いや討論を行い，学習の共同化を図る活動
③役割を分担して活動し，考察や交流を深める活動
・教育機器の積極的利用による授業の改善についての学校全体での研究

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果
・国語科ではグループ学習活動を積極的に取り入れた授業を実践してきた。こうした双方向的な学習形態により，生徒一人一人が発言する機会が増え，互いに支え合い，学び合う姿勢が見られ，学びが深まってきていると思われる。
・実物投影機等の教育機器を利用することにより，生徒の興味・関心も深まった。また，教師側の授業方法の工夫・改善にもつながった。
・国語科のみの研究にとどまることなく，他教科でも教育機器の活用について関心が高まり，授業等で活用する者が増えた。
・公開研究授業にあわせて全教科で授業公開を行ったことで，各教科ともに授業の工夫改善の機会に恵まれ，学校全体での研究意識が高まった。特に，国語の授業研究に学校の全教員が参加し，４人ずつのグループで話合いを行ったことは，好評であった。

（２）研究成果の意義等
・授業等での教育機器の使用頻度が増加した。
・教育機器の利用に伴い，授業方法の改善が一層推進された。
・他校での授業改善に資するように，授業公開・公開研究授業や，研究成果や資料等のホームページへの掲載を積極的に行った。

（３）指定期間終了後の取組
指定校としての研究を通して，職員全体で新学習指導要領の内容理解を深めることができ，学校全体で研修する体制が構築できた。また，教育機器の利用にも関心が高まり，各教科での授業改善の取組につながってきている。
国語科としては，今後も更なる研修を通して生徒の古典への興味・関心を深め，我が国の伝統や文化に関する教育の充実に努めていきたい。
また，学校全体での研究も継続し，積極的に授業改善に取り組み，質の高い授業の実践を通して生徒たちの学びを保障していきたいと考えている。